

各教科等の研究計画

【国 語】

I 研究主題

生徒が主体的に言語活動に取り組みながら、学び合いを通して思考・判断・表現する単元構成の工夫

II 研究仮説

単元に課題解決的な言語活動を取り入れ、効果的な学び合いを設定することで、生徒は主体的に学習に向かい、思考を深めたり適切に判断したり豊かに表現したりすることができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・疑問を生徒に明示し、振り返りを確実に行う。
- ・効果的な学び合いを一時間の授業や単元に位置付ける。
- ・生徒が主体的に学習を進められるように、課題解決的な言語活動を取り入れる。
- ・単元構想表を活用し、単元の学習に一貫性をもたせる。
- ・生徒が意欲的に学習に取り組めるように、課題設定の仕方を工夫する。
(魅力的な課題の提示、生徒自身による課題の発見)
- ・生徒が思考の変容を実感できるように、ホワイトボードや学習シートを活用する。
- ・学校図書館との連携を図り、図書を計画的に活用する。

【社 会】

I 研究主題

社会的事象から学習問題を見だし、他者と協働しながら主体的に問題を解決していく授業の工夫

II 研究仮説

生徒が課題追究への関心を高め、多面的・多角的に考察し学び合うことで、社会的事象の見方や考え方が広がり、自分の考えをしっかりとつとめることができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・社会的事象について、問いや気付きを引き出す資料を準備し、生徒の疑問や予想等を確認しながら一人一人の課題意識を結び付け、みんなで追究する学習問題を設定する。
- ・単元など内容や時間のまとまりを見通し、視点（時間、空間、相互関係等）や方法（比較、関連付け、総合等）に基づいた問いを設定する。
- ・事実に基づいて、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連等を考え、納得して身に付けた内容を自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
- ・学習問題に対するまとめと自己の学習活動や学んだことを振り返り、新たな疑問をもったり社会生活に生かそうと考えたりする場を設定する。
- ・学習したことを生かして、よりよい社会への在り方や社会への関わり方を各自で選択・判断する活動を取り入れる。

【数 学】

I 研究主題

「深い学び」を実現するための学び合いの工夫

II 研究仮説

思考の活性化をはかり、PADカードに示された指標を元にした振り返りをするというサイクルの中で、深い学びが実現されるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・生徒の興味・関心・意欲を喚起し、多様なアプローチが考えられる問題の提示と、既習内容との関連を意識した見通しをもたせ、一人一人が自分の考えをもてるようにする。
- ・数学的な表現を用いて方法や理由、根拠を説明したり、複数の方法を比較・検討したりするなど、他者との関わりを通してよりよい考えに高めることができるようにする。その手立てとして、学び合いの中で考えさせる内容や方法等を生徒に明確に提示する。
- ・これまでの学びを振り返り、働かせた見方・考え方をもとに自己の変容を実感させる。

【理 科】

I 研究主題

自然や地域社会の事物・現象に主体的に関わり、科学的な探究と学び合いから表現力を身に付ける学習活動の工夫

II 研究仮説

自然や地域社会の事物・現象から生徒が自ら課題を発見して科学的に探究する学習活動を計画的に展開することにより、生徒が観察・実験に主体的に取り組むことが期待できる。その取り組みによって得た情報を自分なりに考察したり、表現の方法を工夫したり、仲間同士で学び合ったりすることにより、思考力や表現力も高まるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・自然や地域社会、日常生活の事物・現象から生徒が新たな気付き、疑問を発見することができるよう、導入を工夫し、生徒の気付き、疑問を生かして学習課題を設定するようにする。
- ・予想・仮説を立てる時間を確保し、生徒が見通しをもって観察・実験に向かうことができるよう工夫する。
- ・科学的な思考を深めるために、付箋やホワイトボード、ICT機器等を効果的に活用する。
- ・生徒が自分の考えをより科学的なものにするために、学習形態や学び合いの手法を工夫し、グループで協力しながら課題の解決に向かうことができるようにする。
- ・学習課題が解決されたタイミングで振り返りを実施し、自分が努力したこと、成長できたこと、次への新たな課題の発見、獲得した知識や技能を日常生活と関連付けて活用・発揮する意識をもつ機会とする。

【音 楽】

I 研究主題

生徒が、知覚・感受したことを共有し深め合いながら、音楽のよさや表現する楽しさを実感できる授業の工夫

II 研究仮説

知覚・感受したことを共有し、音楽表現を工夫したり深め合ったりすることで、自らより高い技能を身に付けようとし、自己の変容に気付くことができるであろう。その結果、生徒が音楽のよさや表現する楽しさを実感することができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・生徒の発言を生かし、生徒が見通しがもてるようなめあてを毎時間設定する。
- ・ペアやグループ、パートなど、より効果的な学習形態を選択する。
- ・音楽の要素などの共通事項を掲示したり、黒板資料として用意したりして、生徒が発表に活用できるようにする。
- ・学んだことを視覚化し、既得の知識や技能の活用が図られるような黒板資料や教室掲示を作成する。
- ・拡大楽譜や、電子機器を利用した教材で、生徒の興味・関心を高め、深い理解につなげる。
- ・自分の学び方や考え方の変容に気付き、実生活や次時の活動に生かせるよう毎時間ふりかえりを行う。
- ・授業のまとめや次時のめあての設定にふりかえりカードを活用する。

【美 術】

I 研究主題

造形活動において、自ら問いを立て、他者と協働しながら問題解決を図る指導の工夫

II 研究仮説

生活や社会の中の形や色などの造形的な視点、表現力の育成を意識し、重点的に行うことで、生徒は主体的に学習に向かい、自分の考えを深めたり豊かに表現したりすることができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・子どもの思考を整理し、学習のめあてに迫る指導方法の工夫をする。
(掲示資料や学習シートなどの活用の工夫)
- ・テーマをもとに互いの考えを伝え合い、自らの表現につなげられる話し合いの場を設定する。
- ・鑑賞活動を通して、お互いを認め学び合うことができる機会や場を工夫する。
- ・本時を振り返り、次時への課題を見つけさせるような学習カードの活用を工夫する。

【保健体育】

I 研究主題

一人一人が運動の楽しさや喜びを体得し、生涯にわたり豊かなスポーツライフを楽しむための基礎を身につけたり、健康の保持増進を図るための資質や能力を高めたりすることのできる指導の工夫

II 研究仮説

運動や健康についての自他の課題を発見し、運動の楽しさを味わうことで、生涯を通じて運動に親しみ、個人生活における健全・安全に関する理解を深め、基礎的な資質・能力を高めることができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・課題にそった話し合いの場を設定する。
- ・思考力・判断力・表現力の評価ができる場を設定する。
- ・ICTを活用した授業展開を工夫する。

【技術・家庭】

I 研究主題

社会の変化に能動的に関わり、自ら生活を創り出す力を育成する指導の工夫

II 研究仮説

基礎的・基本的な知識及び技術の定着とその活用を重視した学習のプロセスの中で、自ら生活を見直し、課題に気付く、自分なりに解決策を考え、追究していく問題解決的な学習の実践を充実させていくことによって「自ら生活を創り出す力」が身に付くであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

技術分野

- ・生徒の問いを生かしたためあてを設定する。
- ・生活を豊かにするために必要な情報を収集・処理できるようにするための工夫をする。
- ・木材や他の材料を用いた実験・実習を多く取り入れ、製作上必要な技術・知識を身に付けさせる。
- ・実践的・体験的な学習活動を通してエネルギーの変換方法や保守点検と事故防止を理解させる。
- ・これまで学んできた材料と加工に関する知識・技能を生かすとともに、工夫して製作する喜びや緻密さへのこだわりを、グループや全体での学び合いの活動も踏まえながら体験させ、主体的に実生活を工夫改善する意欲を喚起する。

家庭分野

- ・生徒の問いを生かしたためあてを設定する。
- ・題材に関連するアンケート調査を行い、生徒の生活に結び付けて考え、課題を発見できるようにする。
- ・実践的・体験的な活動を通して、学んだ知識・技術が生活に深く結び付いていることを実感させる。
- ・相互に作品や調理品を評価したり、データや図表等に教科特有の言語を用いて考えを説明したりする言語活動を通して主体的な態度を養い思考力・判断力を高める。
- ・学習内容と生活や社会がどのように関連しているのか考えさせる工夫をする。
- ・保育園等の地域の協力や家庭の協力を得て、他者や地域と関わりやこれからの生活を展望し、自分なりに創造することができるような深い学びにつなげる。

【英語】

I 研究主題

生徒が、理解した英語を活用しながら意欲的にコミュニケーションできる課題設定の工夫

II 研究仮説

実際の使用場面を意識させるとともに、生徒が既習の言語材料を用いて、自分自身の体験と結び付けながら相手に伝えたいと感じる課題を設定することで、自分の気持ちや考えを適切に伝えるための英語表現を身に付けたり、積極的にコミュニケーションをとろうとしたりする力を育成することができるであろう。

III 「思考の活性化」を図る授業改善について

- ・既習の言語材料を活用する場面と新出の語彙や表現の定着を図る場面をバランスよく組み合わせることで、英語学習への意欲を高めるように努める。
- ・コミュニケーションによる学び合いを通して、「知りたい」「伝えたい」と思えるような課題設定、言語活動の工夫に努める。
- ・板書やワークシート、ホワイトボード等の活用・工夫に努め、思考の流れが見えるものにする。
- ・教師自身の英語運用能力を高め、主として英語を用いて授業を行う。

【道徳】

I 研究主題

「よく生きよ」を自ら問い、共に考え、高め合う生徒の育成
～こころの力を育む道徳の時間の工夫を通して～

II 研究仮説

道徳の時間において心に響く資料を用い、自分の思いを語り合うことを中心に据えた授業形態や、発問の工夫をすることで、「よく生きよ」を自ら問い、共に考え、高め合う生徒の育成ができるであろう。

III 共通実践事項

- ・「道徳の時間」において座席配置等の工夫をし、話し合いのしやすい雰囲気作りに努める。
- ・各学級に授業と連動する「こころのカコーナー」を設置し、お互いの考えを交流する場を設定する。
- ・生徒が思いを伝え合い、学び合うための発問の工夫をする。
- ・授業実践の情報交換やその紹介を、学年部を中心に行う。
- ・資料として絵本や新聞等を活用したり、家庭や地域との連携を図ったりする。
- ・生徒の考えを深められるように、学校行事や総合的な学習等との関連を図る。

【特別活動】

I 研究主題

他と関わり合い、話し合い活動を充実させることを通して、よりよい学校生活を築こうとするとともによりよい生き方を求めようとする生徒の育成

II 研究仮説

生徒にとって身近な諸課題について話し合い活動を通して課題解決をしていけば自己有用感が高まり、よりよい学校生活を築こうとするとともによりよい生き方を求める生徒を育成できるであろう。

III 共通実践事項

- ・若竹タイムなどの継続的な活動を充実させる。
- ・全校生徒の生徒会活動参加意識を向上させるため、拡大若竹タイムを実施する。
- ・生徒会活動では各学年を縦割りにした活動を重視する。
- ・年間の学級活動の中に効果的に構成的グループエンカウンターを取り入れる。
- ・学級生活に必要なソーシャルスキルを身に付けさせるための活動を学級の実態に応じて行う。
- ・学校行事においては、所属感や連帯意識を深めるためにガイダンスを充実させる。
- ・進路学習の時間を確保し、系統的・計画的な生き方指導の充実を図る。
- ・年に2回（6月と11月頃）実態調査アンケート(Q-U)を行い、結果を活用する。

【総合的な学習の時間】

I 研究主題

一人一人が未来を語り、共に学び合い、よりよい生き方を考える生徒の育成
～体験を生かした系統的な探究学習を通して～

II 研究仮説

よりよい生き方を探るために、人・社会・自然とのふれあいを通して自分自身や社会の未来を語らせたい。語るためには必要な情報の収集や体験的な活動を行うことが不可欠であると考え。課題解決的な探究学習や協働的な学習を系統的に展開することによって、生徒自ら課題を見つけ、共に学び、自らのよりよい生き方を考えることができる生徒が育つであろう。

III 共通実践事項

- ・各学年のつながりや学年毎の学習内容が分かる全体計画・年間指導計画を作成する。
- ・生徒の気付きや疑問を学習課題とし、生徒個々が適切なテーマを設定して学習活動を進めていくことのできる学習過程を工夫する。
- ・自然体験や社会体験、観察・実験、見学・調査、発表・討論、ものづくり・生産活動などの体験的な学習を取り入れた学習過程を開発する。
- ・自己決定・自己表現の場面を取り入れた学習過程を工夫する。
- ・オープンプラスに対応した学習環境構成を工夫する。
- ・発表、発信と評価の関連を工夫する。
- ・地域人材の活用や各種施設への訪問など、外部との連携を強化する。